

第56回

おokaねの作文コンクール



金融広報中央委員会は全国の中学生を対象に

「おokaねの作文」を募集しています。

みなさんの見たこと、聞いたこと、

感じたことをもとに「おokaね」について考えてみよう。

■特選5編 賞状と図書カード4万円分

金融担当大臣賞／文部科学大臣賞／日本銀行総裁賞／
日本PTA全国協議会会長賞／金融広報中央委員会会長賞

■秀作5編 賞状と図書カード2万円分

■佳作10編 賞状と図書カード3千円分

■学校賞5校 賞状と図書カード1万円分

特選受賞者在籍校

9月15日
しめきり!!
消印有効

(主催)金融広報中央委員会

(後援)金融庁、文部科学省、日本銀行、公益社団法人日本PTA全国協議会、
日本私立中学高等学校連合会



テーマ（作文に書く内容）は、「おかね」に関するものであれば、どのようなものでも構いません。

テーマを考えるとときの参考として、以下に例を示します。ただし、この中から選ぶ必要はありません。自分が書きたいと思う内容を自由に考えてみてください。

テーマを決めた後、作文の内容にふさわしいタイトル（題）をつけてください。

■テーマの例

1. 将来の夢の実現とおかねの関わり

あなたの将来の夢は何ですか。やってみたい仕事はありますか。あなたが思い描く未来を実現するために、どのようなことを心がけ、準備をしていったらよいでしょうか。あなたの「将来設計」を、おかねとの関わり方を含めてまとめてみましょう。

2. 私のおかねのルールやわが家の約束事

あなた自身やあなたの家族で決めているおかねについてのルールはありますか。商品を買うときに心がけていること、携帯電話の使い方、お小遣いのルールなど、消費者として行動の基準としている点はどのようなことですか。2022年4月に成年年齢が18歳に引き下げられたことによる影響なども踏まえながら、整理してみましょう。

3. 活きたおかねの使い方とは

おかねの使い方は、その人の価値観や考え方を表すとともに、多少なりとも世の中に影響を与えます。買い物や貯金などについての自分自身の体験や、周囲の人のおかねの上手な使い方について書いてみましょう。

4. ニュースにみるおかね

新聞やテレビ等で報道された、おかねが関わるニュースを取り上げて、あなたが思うことを書いてみましょう。身近な地域、中学校、社会や文化、海外や世界が関係するさまざまなニュースの中で、関心を持ったニュースを探してみましょう。

■第56回「おかねの作文」コンクール 募集要項

応募資格	中学生
賞	<ul style="list-style-type: none"> ■特選 5編(賞状と図書カード4万円分) 金融担当大臣賞/文部科学大臣賞/日本銀行総裁賞/日本PTA全国協議会会長賞/金融広報中央委員会会長賞 ■秀作 5編(賞状と図書カード2万円分) ■佳作 10編(賞状と図書カード3千円分) ■学校賞(特選受賞者在籍校) 5校(賞状と図書カード1万円分)
締め切り	2023年9月15日(金)※消印有効
発表	12月中旬頃、金融広報中央委員会ホームページ(https://www.shiruporuto.jp/)などで発表。
応募方法	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid #f08080; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>郵送応募</p> </div> <p>〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 5F 毎日企画サービス 金融広報中央委員会コンクール事務局「おかねの作文」コンクール係</p> </div> <div style="border: 1px solid #f08080; padding: 5px; margin-right: 10px; margin-top: 10px;"> <p>WEB応募</p> </div> <p>下記アドレスに接続し、画面の指示に従って応募フォームにより送信してください。 https://www.ron2023.jp/</p>
問い合わせ先	<p>金融広報中央委員会コンクール事務局 TEL.03-6265-6818(土・日・祝日を除く10時～17時)</p> <p>金融広報中央委員会コンクール作品募集ホームページ https://www.ron2023.jp/</p>



■作文指導にあたり、先生方から生徒たちへ伝えていただきたいこと

金融教育は、社会の中で生きていくために必要な金融・経済などの知識や、お金を適切に取り扱う態度を身に付けることなどを目的としています。「生活設計・家計管理」「金融や経済の仕組み」「消費生活・金融トラブル防止」「キャリア教育」という4つの分野に分けられ、「生きる力」の育成にもつながります。作文を書くにあたっては、生徒たちへ上記のテーマの例などを参考に、身の回りのお金や自分の将来に目を向け、考えたことを書くようご指導ください。



第20回金融教育に関する実践報告コンクールも募集中!

～学校での実践や計画、これまでの経験に基づく提言をお寄せください!～
詳しくは<https://www.ron2023.jp/>から教員部門をご覧ください。

金融広報中央委員会とは?

「金融広報中央委員会」(事務局:日本銀行情報サービス局内)は、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、国民に対し中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

あなたは、お金やモノを大切にしていますか？

私たちの回りには、たくさんのモノやサービス、情報があふれています。「豊かな社会」の中で、本当に必要なものを選択し、使っていくことが大切です。お金の使い方もそうです。適切な判断と行動ができる消費者になるためには、将来を見越して計画的にお金と付き合えるようにならなければなりません。

金融広報中央委員会が募集した「おかねの作文」コンクール、昨年は全国から5,113点の作品が寄せられ、20点が入賞作品に選ばれました。これらの作品も参考にしながら、自分の周りで「見たこと」「聞いたこと」「感じたこと」をもとに、自分自身の意見をまとめてみましょう。



受賞作品の紹介

過去の入賞作品はこちらでご覧いただけます。

https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_sakubun/



金融担当大臣賞

インフレに負けない私流おこづかいの守り方
東京都 白百合学園中学校 3年
和田 桜子さん

作品の内容 おこづかいで買えるものがインフレによって少なくなっていると実感した筆者は、母親と相談し、おこづかいをドルでもらうことにします。円への交換方法など、いくつかのルールを決め実行した結果、無駄遣いをしなくなり、ニュースを見ることが日課になったといいます。どんな時代にも自分の資産と生活を守るよう、経済の仕組みを勉強し知識を深めていきたいと宣言し、「日常の出来事から世の中の流れを理解し得た学びや経験が描かれている」と評価されました。

受賞者の声 物価高騰の中で「私のおこづかいを守りたい!」という思いから、経済の勉強をしたり、工夫したりすることが習慣になりました。「人生100年時代」、ますます資産設計が大切になりそうです。今後も社会の変化を自分なりに考えて生活を守っていききたいと思います!

文部科学大臣賞

あの時五千元を財布から出していたら
奈良県 三郷町立三郷中学校 1年
藤本 瑛巨さん

作品の内容 小学校4年生の時に首里城の火災を知り、5,000円を募金しようとした筆者は、「想いのこもったお金の方がずっと価値がある」という母親の一言で、お手伝い1回10円ルールを決め、1,910円を貯めて募金をします。その後も募金のためにお手伝いを続ける筆者は、努力と気持ちのつまったお金は、とても価値のあるもので、周りの人や自分も幸せな気持ちになるといいます。思いや願いをお金で届けることの意味について、自身の生活とつなぎ考察している点が評価されました。

受賞者の声 作文を書いたことで、普段何気なく使っているおかねについて、深く考えることができ、改めておかねの使い方・稼ごうの大切さと両親への感謝の気持ちが芽生えました。これからの人生で、受賞に恥じないように、おかねを通じても成長していきたいです。

日本銀行総裁賞

「向き合う」
新潟県 上越教育大学附属中学校 3年
井口 慶香さん

作品の内容 歯並びにコンプレックスを抱える筆者は、矯正費用が高額なことを知り逡巡していました。こうした中、がんと闘う大好きな伯母が、悩んだ末に医療用ウィッグを購入し、見せた笑顔に心をゆさぶられた筆者は、お金との向き合い方は生き方そのものだと思いき、矯正について両親に正直な思いを伝えます。「お金について考えることを通じて、自らの人生を深く考え、どう生きたいかを真剣に考えている。多くの人に読んでもらいたい」と評価されました。

受賞者の声 お金について考えることは、どう生きたいか、何を大事にしたいかを自分に問うことなのだと思えました。答えにたどり着いたと思っては、また悩み、考えるのだと思っています。生き方を学び、対話しながら考えを広げたり深めたりして、学び続けていきたいです。

日本PTA全国協議会会長賞

「貨幣」という文化

山梨県 北杜市立甲陵中学校 3年
吉村 和夏さん

作品の内容 日常の買い物はキャッシュレス派という筆者は、お賽銭をキャッシュレスで払える寺社があることに衝撃を受け、改めて貨幣のもつ意味を考え直します。日本のキャッシュレス普及率が低いのは、「貨幣」という道具以上の思いを持っているからだと考え、人生の節目に使われる現金の存在は日本独自の文化に根ざしたもので消えないでほしいと結びます。「日本のキャッシュレス普及に関する文化的背景について良い視点で問題提起している」と評価されました。

受賞者の声 コンクールへの応募は、お金について考える良いきっかけになったと思います。また、身近なものの中にこそ見落としてしまいがちな発見がある、ということに気づくことができました。お金に限らず、物事を多角的に見つめ、考えるくせをつけていきたいです。

金融広報中央委員会会長賞

円グラフに学ぶ

鹿児島県 薩摩川内市立川内北中学校 3年
瀧野 まのんさん

作品の内容 未熟児で生まれた妹の高額な医療費負担をきっかけに、筆者の父親はキャッシュフローの記録をつけ始めます。収入、支出、投資・貯蓄、税金に色分けされた円グラフで家のお金事情を学んだ筆者は、投資は他人、社会をよくすることにつながると気づき、将来、父親の円グラフを引き継いで決算報告会を開きたいと結びます。「家庭の中で日々金融教育を実践されていて、大人も含め多くの人がこの作品を読んでほしい」と評価されました。

受賞者の声 このコンクールを通して、妹が生まれたときに、家族が税によって支えられていること、投資を通じて、社会を支えている人々がいることについて、改めて深く考えることができました。私も将来、社会のためのお金の使い方ができる人になりたいと思います。

秀作

私の通帳
秋田県 秋田県立秋田南高等学校中等部 1年
山下 城白さん

お金を使うということ
東京都 東京都立大泉高等学校附属中学校 1年
関 あゆめさん

未来へつながるおかねの使い方
東京都 東京学芸大学附属世田谷中学校 3年
伊藤 舞さん

祖父と人を思うお金
東京都 練馬区立大泉中学校 3年
宮澤 朋希さん

一円玉からわかる社会動向
東京都 町田市立鶴川第二中学校 3年
横野 悠輝さん

学校賞

東京都 白百合学園中学校
新潟県 上越教育大学附属中学校
山梨県 北杜市立甲陵中学校
奈良県 三郷町立三郷中学校
鹿児島県 薩摩川内市立川内北中学校

前回
審査員
(敬称略)

渡邊 裕美子(金融庁総合政策局総合政策課課長補佐)
金田 淳(公益社団法人日本PTA全国協議会会長)
山田 桂志(日本銀行情報サービス局金融広報課長)

藤野 敦(文部科学省初等中等教育局視学官)
勝田 敏行(全日本中学校国語教育研究協議会会長)
野見山 浩平(金融広報中央委員会事務局次長)



